

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
診療局長兼外科統括部長 兼消化器外科部長 兼がん治療センター長 兼医療安全管理室室長 兼臨床研修センター副センター長	種村 匡弘
小児外科部長 兼栄養管理センター長	飯干 泰彦
医 長	金 浩敏
医 長	野中 亮児
医 長	松浦 雄祐
医 長	東 重慶
医 長	古川 陽菜
医 員	松本 謙一
医 員	田村 地生(4月退職)
医 長(乳腺外科)	綱島 亮
医 員(乳腺外科)	奥野 潤
非常勤医員	的羽 大二朗
非常勤医員	松田 大樹
非常勤医員	魚谷 倫史(3月入職)
非常勤医師	久保 杏奈
非常勤医師	出村 公一

—概要—

当センターの外科は消化器外科(上部消化管、下部消化管、肝胆膵)と小児外科、乳腺外科から構成され、カンファレンスや送別会、歓迎会などの医局行事は一体で活動している。消化器外科は、2019年4月に種村が外科統括部長(現 診療局長)として大阪警察病院 肝胆膵外科より赴任し外科全体の管理・運営を行っている。2020年4月にはスタッフ2名、チーフレジデント1名が異動となり、今後も人事刷新によりフレッシュなパワーが注入されると期待している。さらに、2021年度からは富山大学 消化器外科との専門医研修プログラムの連携を組む予定であり、新しい外科メンバーが加入予定である。大阪以外の地域との外科医教育の交流の輪が広がり良い刺激となることを期待している。

年間の全麻手術件数は約600例(乳腺外科症例を除く)で推移している。また、これまで懸案であった急性期医療に対しても外科と救命救急部との連携を強化し、緊急手術が必要な急性腹症、高度腹部外傷の患者さんの受け入れも積極的に進めていきたいと考えている。

診療内容は各専門グループ別に述べる。

◇ 上部消化管:古川(医長)、東(医長)

上部チームとして2020年4月より大阪労災病院より古川医長が着任した。当センターでは胃癌手術症例は年々増加傾向であり2019年では68例であった。しかし、2020年度はコロナ感染拡大の影響を受け約15%胃癌症例は減少した。当センターでは腹腔鏡手術に注力しており腹腔鏡手術割合は約80%であった。当科では全ての胃癌症例において腹腔鏡手術を導入しており幽門側胃切除術、胃部分切除術にとどまらず、胃全摘術、噴門側胃切除術においても腹腔鏡手術を導入している。また進行胃癌においても安全性を十分に担保できると考えられた症例には積極的に腹腔鏡手術を行っている。また体腔内吻合を行い、開腹創をできるだけ小さくした完全腹腔鏡手術を行っている。手術前日に入院していただき、術後は平均9~12日で退院できている。

◇ 下部消化管:金(医長)、野中(医長)

2020年度の大腸癌手術の約90%は腹腔鏡下手術で実施された。新しい手術手技として肛門に近く、比較的小さな癌に対しては経肛門的に直腸内を二酸化炭素で広げ、カメラ画像を見ながら鉗子で直腸腫瘍を切除する内視鏡下手術(経肛門式内視鏡下手術:Transanal minimally invasive surgery; TAMIS)を実施している。さらに直腸癌に対する腹腔鏡手術では骨盤内での手術操作が必要とされる。当科では経肛門的直腸間膜全切除術(Transanal Total Mesorectal Excision; TaTME)を導入し、腹腔側および経肛門的アプローチを同時に行うことで、腹腔側アプローチだけでは剥離操作が困難である骨盤深部の操作をより適切な剥離層で行い、安全で、癌根治性の高い直腸癌手術を行っている。

今後は、上部・下部消化管を通してロボット手術を導入すべく動いていきたいと考えている。

◇ 肝胆膵:種村(診療局長兼外科統括部長兼消化器外科部長)、松浦(医長)、松本(医員)

肝胆膵領域癌、胆石および鼠径ヘルニアの外科診療を行っている。2020年度は27例の高難度手術を実施できた。2021年度は30例以上の高難度手術を実施し日本肝胆膵外科学会の高度技能医修練施設に認定されることを最大の目標としている。また、KHBOをはじめ阪大 肝胆膵疾患グループの多施設共同研究に積極的に参加することで先進集学的治療の確立に取り組んでいる。さらに膵癌症例において低侵襲で、予後・治療効果の有効なバイオマーカーとなり得るリキッドバイオプシーとして、生きたCirculating Tumor Cells (CTCs), Peritoneal Lavage Tumor Cells (PTCs)の検出・解析を行っている。今後は細胞検出にAI導入を予定しておりより正確で、迅速に検出できるシステムの構築を目指す。当センターから新しいエビデンスを発信できるオンリーワン研究を進めていきたいと考えている。

◇ 教育・若手育成について

当科では2名の外科専門医プログラムのレジデントと1~2名の初期研修医が研修している。手術手技の習得に向け、単に手術を見学するだけでなく、できるだけ多くの手術症例への手術参加、執刀を積極的にさせている。また、当センターでは筆頭発表での学会参加、論文投稿料の費用サポートがあり学会発表、論文作成などアカデミックワークも積極的に指導していく方針であり、文武両道を掲げ若手医師の指導・育成にあたる所存である。

—今年度の成果と今後の改善点—

消化器外科診療については、胃癌、大腸癌、肝胆膵領域癌の手術件数は、コロナ感染拡大の影響もあって現状維持から漸減傾向であった。さらに、急性虫垂炎、ヘルニア嵌頓などの緊急手術症例も減少しており、近医からの紹介症例をもれなく受け入れる体制を改めて構築していく。

学術活動については、今後のさらなる奮起が求められる領域である。消化器外科在籍人数に対して学会発表、論文発表が少ないのが問題であると考えている。新年度はより外科学会、消化器外科学会、臨床外科学会などを基軸に活発な学術活動を指導していく所存である。

—来年度への抱負—

安心・安全で、信頼できる医療を提供すべく、消化器外科全体としての目標症例数は600~620例/年を目標としたい。ま

た、腹腔鏡での手術アプローチ実施率を維持し低侵襲手術の推進を図っていきたくと考えている。

われわれは、当センター外科をどのように「One Team」にするかが大事であると考えている。りんくう総合医療センターとして臨床的・学術的活動の中身をしっかりと吟味し、共有することで「真のOne Team」にまとめ、発展していきたくと考えている。

—実績—

【手術実績】

上部（食道・胃・十二指腸）	
食道癌	5
胃悪性腫瘍	70
胃・十二指腸潰瘍・その他	1
食道裂孔ヘルニア	0
計	76
下部（小腸・大腸・肛門）	
結腸癌	52
直腸癌	49
その他悪性腫瘍	6
小腸・大腸粘膜下腫瘍	1
その他	27
計	135
虫垂炎	
急性虫垂炎	29
肝胆膵	
肝細胞癌	8
胆道癌	6
転移性肝癌	5
胆石・胆嚢炎・総胆管結石	89
膵癌・十二指腸乳頭部癌	13
その他	12
計	133
イレウス	
イレウス	9
ヘルニア	
鼠径ヘルニア	74
腹壁癒痕ヘルニア	4
大腿ヘルニア	9
その他	4
計	91
乳腺甲状腺	
乳癌	48
乳腺腫瘍	4
甲状腺癌	1
甲状腺腫瘍	1
その他の甲状腺疾患	0
計	65
小児外科	
鼠径ヘルニア	24
臍ヘルニア	14
虫垂炎	6
その他	2
計	46
その他	
腹膜炎・その他	26
総計	610

【外科メンバー集合写真】



【外科手術】



—症例集積中の臨床研究の紹介（一部抜粋）—

研究内容
次世代型末梢循環癌細胞検出法(OPB-401テロメスキャン)を応用した膵癌患者における転移・再発の機序、治療抵抗性解明(CIC研究)
Borderline Resectable膵癌に対する術前治療としてGEM/nab-PTX併用化学放射線療法とGEM/nab-PTX化学療法を検討するランダム化第Ⅱ相試験
大腸癌手術に対するCOVID-19の影響に関する後方視的解析
胃癌術後補助化学療法中の支持療法の有用性についてのランダム化比較試験 (ACCORD試験)
血液循環腫瘍DNA 陰性の高リスクStageⅡ及び低リスクStageⅢ 結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのCAPOX 療法と手術単独を比較するランダム化第Ⅲ相比較試験 (VEGA trial)
根治的外科治療可能な結腸・直腸癌を対象としたレジストリ研究 (GALAXY trial)
pStageⅡ 大腸癌に対するOSNA法によるリンパ節微小転移診断意義の検討
胃癌StageⅢの術後Docetaxel+S1(DS)療法後早期再発症例に対する Ramucirumab+Irinotecan併用療法第Ⅱ相多施設共同臨床試験 (OGSG1901)
大型3型/4型胃癌に対する術前S-1+Oxaliplatin+ Docetaxel 併用療法の有効性と安全性確認第Ⅱ相試験 (OGSG1902)
肝臓切除を伴わない胆道がん切除例を対象としたゲムシタピン/シスプラチン(GC)併用療法とゲムシタピン/S-1(GS)併用療法の術後補助化学療法のランダム化第Ⅱ相試験 (KHBO1901)
左葉系肝切除後の胃内容物排出遅延に対する癒着防止材(ゼラフィウム)の有用性に関する検討
治癒切除困難な膵癌に対する術前化学療法としてGEM/S-1とGEM/nab-PTXを比較するランダム化第Ⅱ相試験
肝胆膵領域悪性腫瘍に対する術後静脈血栓塞栓症予防に対するエノキサパリン投与の第Ⅱ相ランダム化比較試験
新規乳癌症例を対象とした多重遺伝子検査「Curebest® 95GC Breast」を用いた再発予測と個別化医療の実施および入手データを用いた解析を行うための包括同意取得
BRCA1/2遺伝子検査を用いて遺伝子性乳がん・卵巣がん症候群(Hereditary Breast and/or Ovarian Cancer Syndrome:HBOC)の診断と個別化医療の実施